

第9回 富士市立中学校 部活動地域展開協議会

日 時 令和8年9月7日（月） 午後1時30分～午後3時15分

場 所 富士市消防防災庁舎 3階 作戦指令室

出席者

[委員]

村田 真一 濱嶋 祐樹 佐野 弘美 辻村 典枝 赤松 智美
神尾 充浩 今村 利信 齋藤 章治

[事務局]

教育次長、教育総務課長、学校教育課長、社会教育課長、文化スポーツ課長
部活動地域展開協議会ワーキング委員

傍聴者数 3名（うち報道2）

会 議 の 概 要

1 委嘱状・辞令書交付

太田桂教育長より委嘱状・辞令書を交付する。

2 教育長挨拶

3 会長選任等

富士市立中学校部活動地域展開協議会規則第2条第1項の規定により、委員長を互選により選出する。村田委員が推薦され、全会一致で会長に選出される。

会長の職務代理者について、同規則第2条第3項の規定により、村田会長が佐野委員を指名した。

4 報告事項

- (1) これまでの経緯について
- (2) 富士市認定地域クラブ指導者講習について
- (3) FUJI☆KATSU の活動状況について
- (4) モデル事業について
- (5) 補助金制度について

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

村田会長	事務局より報告事項について5点報告されたが、質問や指摘、感想等はあるか。
佐野委員	地域クラブ指導者講習会に30名参加されたとのことであるが、現在認定されているクラブ数とこれからどのくらい増えそうかという見込みがあれば教えていただきたい。
事務局	クラブ数は、資料3に記載されているものが現段階での数になる。現在、ヒアリングや、各団体と打ち合わせを行いながら、認定についても協議している。今後、クラブ数は増えていくと思うが、現時点でははっきりと言えないため、詳細がわかり次第お伝えしていきたい。
村田会長	つまり、資料3に載っているクラブ名が今のところ全てという理解でよろしいか。他はいかがか。
濱嶋委員	資料3に書いてあるクラブが全て8月1日に始まったのか。全て始まったわけではなく、この中で少しずつ始まっているという形なのか。
事務局	野球・サッカー・剣道は8月以降、開始している。その他の種目については、いろいろな準備や体制を作り、体験会も行いながら活動している。
濱嶋委員	実際に活動しているおおよその人数は、調査しているか。
事務局	部活動の受け皿となるクラブについては把握しているので、お伝えする。資料3の上から、野球の頂富士が24名、吉原リンクスが20名、かりがねBBCが9名、富士ホークスが11名、富士サザンベイBBCが8名、サンシャイン富士が21名。サッカーのフットボールアカデミーパークが38名、FC大淵が36名、ロザンテフジSCセロが39名、ロザンテフジSC ビジャが34名、ロザンテフジSC コスタが54名。剣道のイースト富士が17名、ウエスト富士が27名。部活動になかった多種多様なクラブについては、はっきりした数字はまだ把握していない。
村田会長	人数がわかると状況が見えてくる。今、部活動の受け皿となるクラブが精力的に進んでおり、サッカーは平日の展開をしているので、平日の学校の、今までの単一部活動には所属していないと思うが、野球や剣道の場合は、平日は学校の部活動で活動をしているという理解でよろしいか。二重構造になっているということか。
事務局	学校によっては、部員数が少ないところは閉じている学校もあるが、基本、平日の部活動を実施している状況である。
村田会長	人数の少ない学校は閉じてしまうということは、その子たちは平日の活動は

	できないという状況に陥っているという理解で良いか。
事務局	はい。
村田会長	その他ご意見等、よろしいか。 それでは報告を受けたものとする。

5 協議事項

(1) 部活動の地域展開に向けた体制整備について

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

村田会長	事務局から資料6について説明があった。最終的な到達点としては、資料6－1の最後の提案事項6に7点具体的に標榜されている。これについては、協議ということで進めていきたいと思うが、現状の課題や感想、あるいは質問など、提案事項に対してご意見等はあるか。 提案事項の1つ目であるが、やはりこれが社会的にというか皆さんが関心のあるところだと思う。この令和13年度を1つの到達目標としてということであるが、これは一般的に休日と平日の2通りの展開を考えていると思うが、これは平日も含めてという理解か。まずは休日ということか。
事務局	まずは休日を目指したいと考えている。ただ、各団体や連盟の方と協議しながら、できれば平日も同時にいうところになっていくと思う。
村田会長	国が昨年12月に出したのは、休日は令和13年度までにということであったか。
事務局	はい。
今村委員	提案事項の6番の「休日の地域展開を基盤として、可能な種目から平日の地域展開を進める」ということで、富士市では、サッカーの各認定地域クラブが既に平日に活動している。本校（鷹岡中学校）でも、水曜日と金曜日に活動している。平日のサッカー部の活動も継続しており、二重構造になっている。思いのほかサッカーが地域展開をどんどん進めてくれたため、こどもの活動機会をなくさない、活動の場を学校から地域というところに、どんどん推進できていると感じている。本校のサッカー部を見ると、平日は、個人のスキルを練習している。土曜か日曜のどちらかは認定地域クラブで活動しているということで、部活動と地域クラブと両方活動している子もいれば、部活動だけ出ている子もいる。二重構造をずっと続けていても、地域展開が進まないと考えている。サッカーの場合には、平日にも地域クラブという受

	け皿がある程度整っているため、どこか線を引いて考えていった方がいいのではないかと感じている。具体的には、令和9年4月頃から、富士市ではサッカーの学校部活動を実施しないという方向性を示し、地域展開を促進することも一つの方法ではないかと考えている。今から令和9年3月までを準備期間とし、生徒や保護者が、認定地域クラブに参加するのか、他の部活動に所属するのか、あるいは別の地域クラブで活動するのかを考える時間を設け、3月までの活動とするというのも1つの案と感じた。そういった実情があるため、提案をさせてもらった。
村田会長	今村委員から話があった鷹岡中学校の場合、サッカーが地域クラブということで、二重構造になっているという説明であった。鷹岡中学校の生徒は、部活動も行っているというのは、16時半までは部活動として活動し、18時から地域クラブとして活動しているということか。水曜日・金曜日を地域クラブで活動して、部活動がある時は、月曜日と火曜日を部活動をやっていると。ただ同一の日でも部活の時間と地域クラブの時間が重なっているときがある？
今村委員	重なっているときがある。その問題としては一旦帰るのもいいが、時間的に少し厳しい。16時半から一旦帰ってまた来るというのは厳しいとか、先ほど言ったように、チームで練習するというよりも、個人的なスキルを練習するということで、指導者も、活動の意味というか、どうかなというところがある。
村田会長	どっちが個人的なスキルか。
今村委員	学校である。
村田会長	それは試合を地域クラブで出るからということか。 ちなみにサッカーの場合、なぜ学校は部活動の時間をあえて残しているのか。
今村委員	まだ受け皿ができていないというか、今年の8月から認定地域クラブができた。土日どちらか活動し、平日も全てのサッカーの認定地域クラブで活動し始めたらどうかということで、夏休み以降活動し始めたものである。
村田会長	サッカーは、競技団体や種目の特性などいろいろ状況もあるのかもしれないが、地域クラブとして展開しやすい状況にあるという話であった。
赤松委員	うちのこどもは、中学生であり、サッカーをやっている。中学1年生で入ったときには部活があった。中学2年生の中体連終了後、地域移行になるというのを、保護者はそれほど実感がないまま迎えてしまっているのが現状で

	ある。先ほど、「このまま平日の部活を例えば4月までを猶予期間にして4月以降はなくすというふうにしたらどうか」という話であったが、もともと平日の部活というのは放課後にあるもので、学校が終わった後に体を動かして家に帰ってくるという流れであった。火曜日・木曜日・金曜日が部活の日で、サッカー部は、金曜日が認定地域クラブの活動が18時からあるので、火曜日と木曜日だけ活動がある。今までは毎日のように部活があったのが週2回になり、うちのこどもは認定地域クラブに所属しているが、水曜日と金曜日、他の習い事とかぶっていて、短時間しか参加できないという現状がある。その水曜日と金曜日というのも、決まったのが大分前ではない。そのため、今の2年生の子たちは、かなり急速に進んでいっており、どうなるのか、どうなるのかと来てしまっているので、例えば4月からなくなるというのであれば、すぐにでも教えてもらいたいと思う。情報提供を、とにかく実際に今活動しているこどもたちや保護者に伝えてほしい。今、平日の展開をしているのはサッカーだけなので、他の部活は活動しているが、自分たちは部活がないというのは、少し寂しそうである。スパッとなくなるのではなく、その経過をこどもたちにしっかり伝えてあげてほしいと思う。なくなることが悪いとかではなく、ただ、開始時間も18時からでは送迎ができない。18時～20時となると親の負担もかかってきている。部活があれば部活だけやってきて、行けないときがあってもとなるが、そうすると平日は何も運動ができずに土日だけということにもなりかねない。他の部活に先行することはとてもいいことだとは思いますが、余りにも先行しすぎると、自分たちは部活がない、他の人たちは部活があるという状況になる。だから夏休みとかどうなるのかなと。今年も7月の後半は部活動があったが、お盆明けはもう部活がなくて、他の部活の子たちは平日の昼間に部活がある。しかし、サッカー部は何もない。だから長期休みがどうなってくるのかとそのあたりも不安である。
村田会長	貴重な意見をありがとうございます。この地域展開の難しいところというのは、国は推進しろと言っているので、進んでいると良いということになりがちである。しかし、多面的に見ると、今、赤松委員からいただいた意見は、やはりこどもたちから見たら相対的に比較したときに、他のところが進んでいるのはある意味望ましいことだけれども、逆に言えば部活動がポツンとないというのがつまびらかになってしまうので、それに対するこどもの認識というのは、確かにそうだなと感じた。 何か論点出しでも構わないので、これから行政や我々の方で、ある程度期

	限を決めてこういった方向でとなったときに、今のような論点があると、やはりこうした方がいいのではないかという修正意見にもなる。他はいかがか。
神尾委員	本当に貴重なご意見だったと思う。行政と、実際に運営する地域クラブ、地域団体の人たちとの調整は、すごく難しいのだろうなというのは、今までのお話も伺っていてすごく感じている。また、種目によってもその進み具合、足の運び具合が違っていて、特にサッカー、野球は比較的早く歩みを進めてきたのかなと思っているが、今お話を伺ったように、小学生ならば、ある程度中学校に入学するまでに時間があるので考える余裕があるかと思うが、現役の中学生が置き去りにされてしまうというのは、中学校の関係者としては本当に一番してはならないような、そういう気持ちにさせてはいけないなというのを改めて感じた。そういう意味で、1番にあるように、ある程度ゴールというか、何年に一応こんなゴールの姿を目指しますという期限を切り、さらにそれぞれの種目で整備計画を立てる、あるいは考えていただく、それを皆さんにお示しするというのは必要なことであると思った。
村田会長	一斉になのか種目ごとになのかという議論もあると思うが、ある程度、種目という考え方がわかりやすいと思うが、種目ごと、自治体によってはエリアごととかもあるようである。種目ごとでももう少し緻密な整備計画を立てていくのがやはり大事なのではないかという意見であった。他はいかがか。
佐野委員	今お話にあった、部活に入っている子の移行も大変だと思うが、これから入学してくる小学生について、平日もサッカーのように地域クラブの活動になってしまうと、果たして何人入ってくれるのか、スポーツ少年団上がりの子は、おそらくそのまま引き込まれて入る子が多いと思うが、中学で全くの初心者の子も結構いる。その子たちが入ってくれるのかどうか少し疑問であり、それであれば小学校のうちから宣伝しておかないといけないのかなと思ったりもしている。他市では、小学校5・6年生に説明会を開催しているところがあるので、今後そういう対策も必要なのかなというのが1点。これは完全に平日も休日も全部移行してしまうのか。
村田会長	国はそうように言っている。
佐野委員	そうすると、もう学校では一切部活はやらないという形になるのか。先ほど二重構造というお話があったが、全く運動しなくなってしまうのも困るので、トレーニング部というか、部活競技を専門的に行うのではなく、学校では、基本動作のトレーニングをする部活などを考えると先生の負担がまた大変になってしまうのか。サッカーのクラブチームなど、何かに入っている子

	は、トレーニングだけ行っている部、パソコン部というのは名ばかりでトレーニングを行っている学校があったと思う。競技種目ごとに部活動を分けるだけでなく、競技を限定しない別の形の活動についても検討してよいのではないかと思った。
村田会長	私も他市のいろいろな事例を調べている。これまで教員は多忙な中で、土日の試合の引率に加え、必要以上に平日も遅い時間まで活動していた。学校には就業時間があり、原則として 16 時 30 分までとなっている。ここまではやはり子どもたちの教育をというのがあったので、他の自治体では、学校の判断であえて残すというところもある。いわゆる学校部活動の意義というものを残すために、活動時間を必要以上に伸ばせはしないけど、16 時 30 分までは学校で部活動を行う。 私も話を聞いて思ったのが、16 時 30 分までは学校の部活で、そのあとは地域クラブのような活動をするところもあれば、やっぱり今こういう流れなので部活というものを一切なくすという学校もある。16 時 30 分までは学校に部活を残して、教員と生徒で、教育課程外の活動として創意工夫しながら取り組むという方法も考えられるのかもしれない。今目まぐるしく変わっている。熊本市では、学校の部活を教育的な意義があるとして残している。一方で教員の多忙化という社会的な課題を解消するため、地域の方を基本、部活に入れていくと。今でいう地域連携、展開ではなくて地域連携というのを行っている自治体もある。あくまで国がスタンダードは示しているが罰則が設けられているわけではないため、やりようによっては幾らでもある。
濱嶋委員	最初の事務局からの説明で、令和 13 年までにあくまで休日を地域展開しますという話であったと思う。そういう意味で、平日の部活動をやらないというのは、私も保護者でもあるので、保護者としてはありえないかなと思っていて。教育という観点で見ると、何の競技をするか、誰とやるのか、誰に教えてもらうかという点が非常に大事である。授業では関係がうまくいかない場合でも、部活動を通して教員と生徒がコミュニケーションを取れることがある。教育という観点から見ると、先生とのつながりというのは、多角的な視野があるので、そういう意味では部活を残してほしいというのは、保護者としての意見である。学校の授業が終わった後、すぐに部活に入れるというところのメリットとしては、やはり入りやすい、やりやすいという部分もある。一方で、一番ネックな部分は先生方の働き方になってくる。現在は月曜日と水曜日は部活動休養日とするなど、活動日数を制限している。そのため、

	まずは令和 13 年度までは平日は部活動をそのまま継続し、今回については、休日の部活動から地域移行できる競技を進めていくというのがよいのではないかな。競技として本格的に取り組みたい生徒については、正直、部活動の受け皿となるクラブではない競技に特化した別のところに行けばいいのかなと考えるので、教育という観点であれば、平日はできる限り継続していただきたい。 部活動の中で指導できる教員が少ない、教員の負担が大きい場合は、地域の方を部活動へ参加してもらえるように、まずは令和 13 年までは進めていき、その後、平日の部活動をどの段階で地域へ移行するのかについては、その次の段階になる。今回この協議の中で、サッカーの事例を取ってしまうと少し寂しいような、いきなり部活動をとってしまうのは少しかわいそうだなという部分があった。
村田会長	現在、同時進行で進んでいるので、いろいろな課題が見えてきていると思う。これまでは保護者の立場からの意見が中心であったが、学校の現場にいらっしゃる先生方はこの状況をどのように受け止めているのか。
齋藤委員	鷹岡中学校では、1・2年生の中に、部活動には引き続き所属をしているが、地域クラブには加入しない生徒が数名いるのが実情である。その生徒たちにとっては、今後、平日の部活がどうなるかがまだ不透明な部分はあるかとは思ふ。しかし、彼らは試合に出場することを目標とするのではなく、好きなサッカーを平日限られた時間の中で仲間とともに楽しみたいと考えている。一方で、チームメイトについては、別のクラブに入る生徒もいると思う。そのため、チーム編成や戦術的なトレーニングなど、これまでであれば週末の大会に向けて設定していた課題や、大会・練習試合を通してチームの方向性を確認していくといった目的意識を、今後どのように維持していくかが難しくなる。新しい形では、チームメイトでありながら、所属チームが異なる生徒同士がグラウンドで部活の時間に一緒に練習をしている環境もあるため、本当に難しいと思う。こどもたちが好きなサッカーをやりたいという思いも大切にすることが必要がある。また、数年前までは富士市も全員加入で部活動を行っていたが、現在は任意加入となり、従来よりも、より部活にチャレンジしたい子が所属している現状もある。そのため、より整備が進んでいくと、こどもたちが感じる寂しさや不安も、少しずつ軽減されていくのではないかと考えている。
村田会長	サッカーからその他文化部まで、認定地域クラブが約 13 種目ある。地域展

	開を進めていくこと自体は構わないが、展開が進む種目と進まない種目のギャップがあると、逆に、進んでいる種目のやりたい子が部活がないというギャップを感じているというところかなと思った。もちろん種目ごとの違いや、より具体的なことを言ったら指導者の数なども関係していると思う。結局は受け皿となるクラブがあるか、教える人がいるか、今ここで言えないと思うが、どの種目が一番展開に時間がかかるかということをおそらく肌感覚ではわかっているかもしれないが、そこが重要な点だと思った。
事務局	現在いろいろと協議をしているので、その状況をお伝えしたい。まず先ほど資料のとおり、このまま部活動を続けていくと、こどもの数は間違いなく減っていくので、部活動に入るこどもの数は、種目ごと減っていく。減っていった場合には、学校によってはある程度人数が少ない場合には、募集を停止するとか、活動しないというような形で、縮小傾向になっていくと思う。 1人2人残ったところで、おそらくそのまま部活を残すということはしていないのではないかなとは思っている。こどもの数が減るということは、クラスの数が減り、クラスの数が減るということは、教員の数が減るということであるので、1クラス減ったときに教員が1人減るか2人減るか。そうするとやはり顧問の数も限りがある。それがますます加速していく中で、地域展開は進めていかなければならないと思っている。ただ、これも学校規模によってかなり違うため、縮小傾向の幅が富士市の学校の中でもかなり大きいのかなというのはあるが、小規模校・中規模校の学校はこれからますますやりたい活動がないという状況が生まれてくる中で、やはり進めていかなければならないというのは、私たちの考えである。種目の進捗状況の差であるが、今、サッカー・剣道・野球については、生徒の数が本当に減ってきている種目である。何とかしなければならぬという先生方や、連盟の方々のその熱意によって、早く動いているという状況がある。ただ、バレーボールや卓球、バスケットボール、ソフトテニス競技人口が実は減っておらず、たくさんこどもたちもいる状況であるので、それほど地域展開しなくてもやっていける、まだ部活動としてやっていける状況だというような現実があるので、地域展開について話をしているが、この時期までという期限がないため、進んでいないという状況である。そのため、まずは休日の地域展開の期限を示して、そこまでに休日は展開するということでやっていかないと進んでいかないのでないかと考え、このような提案をした。
村田会長	行政の皆さんのヒアリングの感覚では、資料6－5であるが、バレー・卓

	球・バスケット・ソフトテニスに関しては今のところ人数がいるので、現場の危機感というのは少し薄いと。これは悪い意味ではないが、危機感はいらない。一方でサッカー・野球・ソフト、相対的にサッカーが多いのであるのだろうが、それでもやはり人数が減っているという状況を見たときに関係者の危機感の差がこの進度に出ているということである。 他はいかがか。令和13年度を1つの到達目標とした整備計画とすることは、この後何かリリースするか？議事録やホームページで出るか？
事務局	まだ方向性というところで今回はここで決定ではないので、皆さんの意見をいただいて、課内や担当内で話をしながら進めていきたい。
村田会長	私は結論から言ったら、先延ばしという意味ではないが、この令和13年度を1つの到達目標という状況があるからいいと思う。令和13年度というと、あえて他市に比べると実は少し遅い。遅いから悪いとか早いから良いということではない。分岐の方向性の問題である。私も、静岡県内の中部6市2町をこの7月から9月で全てヒアリングに行った。すると、皆さんご存じの通り、静岡市は来年の9月に全部一斉に変えろと。島田市は令和9年9月から休日は変えて、焼津市は既に休日は変わっていて平日を令和10年度に変えたい。牧之原市も令和10年度にまず休日を変えたい。あと藤枝市と御前崎市は令和11年度中には変えていく。実はこれもヒアリング不足で、決定なのかそれを目指すのかというその濃度の違いをもう1度確認しないといけない。改革実行期間の前期が今年度からであるが、令和8・9・10年度の前期、令和11・12・13年度の後期があると思うが、大体前期で着手していくというのが多い感じがある。ただ、赤松委員からのご意見などを聞いていると、進めていくことだけがというのは思っていて、例えば大きくマクロに見たら明らかに少子化はこの資料の6-4にあるとおり、既にこうなっているのだから、そう考えると、早くやる合戦ではないため、令和13年度を目途というのは、考える猶予的にもいいのかなと思った。ただ、他市が早く進めているのは、既に行政の方はおわかりだと思うが、行政によってはこの改革のために1つの室を設けたり、人も、ものすごくリソースをかけている自治体もあるので、それが別に行政の善し悪しではないが、そういった事情を考えると、静岡市は、以前は教育委員会を中心に進めていたが、企画部署が今は進めており、42校中学校があると思うが、それでも進めていくということである。富士市は15中学校ある。
事務局	先ほど期限の問題が出ているが、資料の6-5の上の方に、小5・小4・

	小3・小2と示している。例えば、令和13年度に中1に上がる子は、今小2である、というような見方で見ていただけるといい。例えば令和13年度までに休日地域展開しますという流れの中で、この小2・小3・小4の子たちに早く伝えていかないといけない。今のような、急に変わったとか、急に地域展開の方にとというような動きになるので、やはり令和13年度を1つの目標にしていきたい。協議し始めて、実際に地域展開する段階まで行くのに2年間ぐらいはかかるので、先ほど改革の前期というお話があったが、前期までには各団体や連盟・協会の方々と話をして、方向性を示さないといけないと思っている。令和11年・令和12年に動き出してもやはり遅くて、来年、再来年度のうちにある程度、令和13年度までにとか令和12年度までにというものを示す必要があるというのは感じている。
村田会長	いろいろな調整やプロモーションなどもあって2年間のラグ、また、時間が必要になってくるということである。 改めて提案事項を見ると、最後のこの7点でいろいろ議論が出てきたと思う。こういう状況を見ていて、スポーツ協会や文化連盟の方としてはいろいろな相談が来る立場だと思うが、大変と感じることはあるか。
辻村委員	今いろいろお聞きしていて、少し大変かなと思った。文化活動は、毎日活動しなければならないというものはあまりない。週1回できれば幸せである。
村田会長	大事な視点で、スポーツも文化もそうであるが、こういう話題になるとどうしても数値や量が出てきて、参加する人数や加入率というが、そもそもその数を維持することが本当に善なのかどうなのかというのはある。もちろん良いことだと思って進めてはいいとは思いますが。また、その数が減っているというのが、社会現象の少子化で減っているのか、加入率が減って少なくなっているのかというのは実は見極めないといけない部分だと思っている。まだ初めての経験であり社会現象であるので、少子化に、かつ、加入率も下がればそれはいろいろ問題というか少し考えないといけない。先ほど佐野委員から意見があったが、結局こうなったときに入るのかなというのは確かにある。他はいかがか。
今村委員	7番の「生徒、保護者、教員、地域団体等の意見を継続的に把握し、改善を行う」という案がある。私は鷹岡中学校に来る前に元吉原中学校の校長であった。富士川一中、富士川二中、元吉原中と2学級、それもぎりぎり2学級で、一学年36人のところもあれば、40数人のところもある。加入率が文化部を入れて80%ぐらいである。現状として地域展開の受け皿がないため、こ

	どもの活動の場をなくさないということで、例えば女子テニス部は1人、2人しかいない。それでも、3コートあって顧問を1人ないし2人つけて活動したりとか、バスケットボールをやりたいけどバスケットボールはできないと言って他の部に入ったり入らなかったりとか、野球部も2人いるが野球部はないので合同部活動で活動したりとか。そういったことをやっていて、本当に小さな学校は部活を続けてくださいと言っても回っていかない。来年も1年生は単学級になるとか、そういった中で部活を続けていきたいと思いますと言っても、小さい学校はなかなか難しい現状である。しかし部活をなくしてしまうとその受け皿がないため、少なくとも部活動を減らしていくと、もう来年から部員を取らないということはあるが、ソフトテニス部だった子は、何も部活動ができずにそのまま終わりにになってしまう。ある程度教師の人数がいるときには顧問をつけることはできるが、小さな中学校に関しては、本当に少子化で先生が少なくなっていくので、地域展開を早く進めていただき、こどもの活動の場所を確保してもらいたいという思いが生徒も先生もある。部活をなくすというよりも、活動の場所を移すというような意味合いで進めていってもらいたいと感じている。受け皿があるときに移行する時期かなと、そのスタートかなというところではないかなと感じている。
村田会長	富士市・静岡市・浜松市・藤枝市といった市町の規模だけではなくてその市の中でも学校規模というのはあり、ここの提案事項の中には潜り込んでいるのかもしれないが、やはりその学校規模というのは留意しながら進めていくというのは、大事な観点だと思った。 他にいかがか。ある程度審議できたと思う。この提案事項について今日は断定的なものを決めるというよりかは、こういった方針をまず立てて、本日皆さんから伺った意見をもとにもう一度事務局の方でも、当然この協議会でも揉んで方針を定めていくという、方向性は了承いただきたいという内容であるが、いかがか。基本ここの文言とかこういった感じで緩やかに方針を持っていくということで、ご了承いただいてよろしいか。国が出している指針や期限というのがあるが、富士市も何年にどうするかというかつちりしたものではなく、1つ期限を定める方向で議論を進めていくということで、本日はご了承いただいたという事にしたい。

(2) FUJI☆KATSU応援企業等登録制度について

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

村田会長	FUJI☆KATSU 応援企業登録制度実施要領について、質問や意見はあるか。協会や団体、学校、行政だけではなくて、民間企業も、特に富士市の場合はそういった企業も多いと思うので、そういったところにもこういった制度を運用していきたいということである。 これはとても良いことであると思う。現段階で、企業でこういった協力をしてくれているという実例はあるか。
事務局	スポーツ用品を販売している株式会社シラトリと7月に協定を締結した。フジカツの活動に参加している生徒に対するスポーツ用品購入時の支援や、今後、平日の活動を展開していく中で必要となる設備の整備について、助言をいただくなどの協力を得ている。
村田会長	これは応援企業に登録してもらったら、富士市の方から何かあるのか。
事務局	登録証が発行される。
村田会長	わかりました。他に質問や意見はあるか。
事務局	先ほどの株式会社シラトリとの協定についての話の続きであるが、フジカツに参加すると小さなカードを発行する。そのカードを株式会社シラトリに持参すると、スポーツ用品を購入する際に割引を受けられる仕組みとなっている。
村田会長	これは本人だけか。本人がいたらその家族も安くなるなどはあるか。
事務局	フジカツのクラブに所属しているこどもたちが使う。
村田会長	わかりました。 それでは確認であるが、このフジカツ応援企業登録制度についてご異議なく了承いただくということによろしいか。 それでは了承いただいたということで進めたいと思う。

(3) 文化芸術活動について

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

村田会長	文化芸術活動について、文化振興財団の方が受託し、運営していくということであるが、意見や質問、感想はあるか。
神尾委員	本当に非常にありがたいことである。財団の役割を見ると、運営に関するほぼ全ての事項が網羅されている。文化振興財団を介して申込みから活動中の困りごとまで一手に引き受けていただけるとのことで、非常にありがたいお話だと思った。

村田会長	国が示している、実施主体を束ねる運営団体になってもらえるということである。これはいつから開始されるのか。
事務局	予定では、来年度から少しずつ始めていければと思っている。
神尾委員	吹奏楽部の活動が今後どうなっていくのか。会場の問題があると思う。運動部もそうであるが、この文化については、吹奏楽部の活動が今後どうなっていくのか、今後調整が絶対に必要になるだろうというイメージがある。
村田会長	具体的には、15校ある中学校全て吹奏楽部の活動を、ロゼ吹奏楽部で補完、展開するというのではないか。
事務局	まだ何も決まっていない。休日はエリアごとに始められたらと考えている。
村田会長	先ほど赤松委員からも意見があったが、やはりリリースが大事であると思う。今エリアという発言があったが、富士市の15中学校というのは大体エリアは幾つに分かれるという慣習があるか。
事務局	富士市の場合は、エリアの数や場所は決めていない。
村田会長	なんとなく皆さんの生活感覚ではあると思うが。
事務局	種目や競技によって数が異なるため、一緒に活動する学校も種目や競技によって変わってくるっていうのが今の状況である。
村田会長	もちろん数もあるが、先ほど今村委員からも意見があったが、中学校のアクセスというか近い感じでというのもないか。
事務局	できるだけ近いところで子どもたちが通いやすいようなエリア制にはしていくが、必ず全ての学校、種目が同じというわけではない。
村田会長	報告事項で説明のあった資料3に、部活動の受け皿となるクラブと部活動になかった種目のクラブの一覧があるが、文化振興財団の話は、部活動になかった種目のクラブとの関係性は何かあるか。
事務局	関係性はない。
村田会長	このフジカツの活動状況で部活動になかった文化系の種目という内容が、文化財団の内容とかぶったり、何か調整が必要になることは、今後あるかもしれないし、全然別か。
事務局	そういった場合には調整をしていくことになる。
村田会長	文化振興財団に手を挙げてもらってありがたいことであると思う。 特にほかに意見がなければ、来年度を目途にスタートしていくということでご異議なく了承いただくということによろしいか。（「はい」の声あり。）それでは了承いただいたということで進めたいと思う。

	報告事項、協議事項が全て終わったが、委員の皆さんから何か付け足すことは何かあるか。
赤松委員	お願いである。来年度は部活はどうなるか。昨日も他の保護者と話をしたが、今やっているスポーツをどうするのかといったときに、野球・サッカー・剣道以外のスポーツをやっている子の保護者は、この先どうなるかわからなくて心配だということを言っていた。今の6年生が来年中学校に入る時に、自分が中学3年生までの間どうなるのか、すごく心配というか、途中で部活がなくなってしまう、途中でというのが一番困ると思う。とても大変なことだとは思いますが、できるだけこの資料6－5の体制整備を何年までというのを、もっと具体的なものをできるだけ早めに教えてほしい。部活を選ぶ際にやりたいと思って、例えばバスケ部に入ったが、1年後、地域展開になって部活動がなくなったということになってしまうと、もうその時点で3年後には部活がなくなるとか、ここまでは部活があるとか、とても難しいことだと思うが、とにかく早めに情報提供をしていただきたい。
村田会長	こういった議論を今進めているということだけでもリリースすると心配は和らぐような気はする。もちろん行政の方で議事録など全て残しているが、なかなか我々市民が自分からアプローチすることがないので、その辺りの工夫が確かに大事だと思った。 他はいかがか。学校の先生方に聞きたいのは、生徒さんも「先生どうなるの？この種目は？」「うちの部活も少ないけど早く地域クラブにならないの？」「地域クラブにしないでください」など、そういったざっくばらんな話が先生と生徒の間で起こったりするか。あまり生徒は知らないのか。
齋藤委員	興味のある子というか、今SNS等もあるため、いろいろな学校の生徒さんとなつなったりだとか、サッカーや野球、剣道の3つについては、今歩みが既に始まっているので、例えばバスケットボールは「先生どうなるの」という声がわずかにある。もしかしたら学級担任をしている教員は、クラスにいる子たちから、もっとそういう声を聞いていることもあるかと思う。どうしても回答に困ってしまっている先生方は市内のいろいろな場所にいるのではないかと思う。現状部活はあるよというニュアンスの回答しかできていないかと思う。
村田会長	内容に変更が生じた場合であっても、まずは情報を積極的に公開していくことが安心感につながるのかなと今聞きながら思った。国の方針を含め、これまでも様々な修正が行われ、名称や年度なども変更されている。そのた

	め、こうした変更について社会に理解していただきながら、とにかく情報は全て出していくというスタイルは大事であると思った。 本日予定していた議事は全て終了した。委員の皆様、活発なご意見、円滑な進行に協力いただきありがとうございました。
--	---

6 その他（連絡事項）

- ・次回、第10回の協議会の開催は、令和8年11月下旬から12月上旬を予定している。後日開催通知を送付する。
- ・今回の議事録については、事務局で作成し、後日送付する。

閉 会